

防災行動計画ワーキンググループについて

防災行動計画W.G.

現状と課題、検討の方向性等

【現状と課題】

- ①三大都市圏は、ゼロメートル地帯を抱え、水災害に対して脆弱である。
- ②大規模な水災害の様相は、中小規模の水災害の様相と大きく異なる。
- ③被害の最小化には、発災後の対応だけでなく、発災前の対応が鍵である。

【検討の方向性】

- ①「被害の発生を前提とした防災」の重要性に関する住民・企業・関係機関等への周知
- ②防災行動計画策定指針の検討
- ③防災行動計画の策定（首都・中部圏の事例検討）

【WGの作業内容とスケジュール(案)】

- ・平成26年1～3月 論点の整理、論点毎の対応方針の検討
「被害の発生を前提とした防災」の重要性に関する住民・企業・関係機関等への周知 →中間とりまとめ
- ・平成26年4月～ 出水期に向けて実施、試行する内容の推進、課題の継続検討
→防災行動計画の作成(→防災業務計画の見直し)

防災行動計画W.G.における論点について

1. 検討の対象と特徴

- ① 中枢機能を麻痺させ、日本経済全体に影響を与えるような大規模な洪水・高潮、土砂災害を対象
- ② 大規模水害における段階的に推移する事態の時系列(タイムライン)に応じた対応に注目

2. 主要な論点・課題

【論点・課題 1】 ➤ 防災対応における「いつ」を明確にする意義(効果)と体系化

【論点・課題 2】 ➤ 発災後の救難・救護、早期復旧を可能とする対応・体制整備

【論点・課題 3】 ➤ 大量の要避難者・帰宅困難者の移送に係る交通容量の増大とリードタイムの確保

【論点・課題 4】 ➤ 垂直避難(家屋・ビルの3階以上への移動等)への対応(食料・資機材配備も含む)

【論点・課題 5】 ➤ 地方自治体等への技術支援

【論点・課題 6】 ➤ 防災行動計画による迅速・的確な対応のための関係者の連携